

第5・6学年 道徳科学習指導案

平成30年10月26日（金）2校時

指導者 若槻 慎也

1. 主題名 思いやりの心 <B一（7）親切，思いやり>

2. 教材名 「バスと赤ちゃん」 （「ゆたかな心 5年」 光文書院）

3. 主題設定の理由

（1）ねらいとする道徳的価値

本主題は、内容項目第5学年及び第6学年「B 主として人との関わりに関すること」（7）「誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすること。」を取り上げたものである。

自分のことばかりを考えたり、自分の思だけを主張したりしては望ましい人間関係を構築することはできない。互いが相手に対して思いやりの心をもって接するようにすることが不可欠である。思いやりとは、相手の気持ちや立場を自分のことに置き換えて推し量り、相手に対してよかれと思う気持ちを相手に向けることである。そのためには、相手の存在を受け入れ、相手のよさを見いだそうとする姿勢が求められる。具体的には、相手の立場を考えたり相手の気持ちを想像したりすることを通して励ましや援助をすることである。また、単に手を差し伸べることだけではなく、時には相手のことを考えて温かく見守ることも思いやりのある行為としての表れである。相手のことを親身になって考えようとする態度を育てることが期待される。

高学年の時期は、自他を客観的に捉えられるようになってくる段階である。そのため、相手の状況を自分自身に置き換えて想像できるようになる。また、家の周囲や学校だけでなく、地域社会における公共の場所など活動範囲がより一層広がり、より多様な人々と接する機会が多くなっていく。

人間同士が関わる中で、相手の思いは見ることはできない。しかし、相手の様子や立場をよく観察することで、相手がどのように感じて何を思っているのかを察することはできる。相手の思いが分かれば分かるほど、相手のために自分にできることをしようという思いがわく。そして、そのような思いが生み出した親切な行為には、人の心を温めたり心を動かしたりする力がある。

本時の学習を通して、思いやりの心をもつ力の大きさを感じ、そのような思いをもとに行動しようとする道徳的実践意欲につなげていきたい。

（2）児童の実態

<個人情報保護のため省略>

(3) 指導にあたって

本教材「バスと赤ちゃん」は、赤ちゃんを連れてバスに乗っていた母親が、満員の車内で泣き出した赤ちゃんが他の乗客に迷惑をかけると感じ、途中下車しようとするが、それに気付いたバスの運転手が母親に声をかけ、乗客に母親の乗車について呼びかける話である。運転手と乗客、母親の姿から、思いやりの心をもつ力の大きさを感じられる教材である。また、運転手、乗客、母親、それぞれの立場や想いを理解することで、相互理解、寛容についても考えることができる。

泣いている赤ちゃんを抱いた母親に共感する運転手の心。運転手や母親の想いを察して共感し、拍手する乗客の心。みんなの温かい想いを受けて感謝の意を示す母親の心。これらの思いやりの心について考えるために、中心発問では「数十年も前の出来事が今も心に残っているのは、運転手さんやお客さんにどんな行動や想いがあったからだと思いますか。」と問う。思いやりについて多面的・多角的に考えるために、それぞれの行動とその背景にある想いについて、本時で明らかにしていきたい。運転手、乗客の行動については、学級全体で確認した後、それぞれの行動の背景にある想いについて個人で考える。行動の背景にある想いを考える活動を設定することで、思いやりについて自分と違った視点での見方や考え方があることを知り、考えの幅を広げるとともに主体的に取り組めるように支援したい。その際に個人の考えを書く時間をしっかりと確保し、自分の考えをもった上で話し合いに参加することで、より友達の考えと比較できるようにする。その後、母親の行動や想いについては、学級全体で考える。そして、それぞれの行動は異なるが、その基となる心には、共通点があり、それが思いやりの心であることを理解するとともに、この思いやりの心を基にした行動だからこそ、人の心を動かす力があることに気付かせたい。

自分をふりかえる場面では、本時で学習した道徳的価値について自己理解と道徳的実践意欲につなげるために、「今日の学習をふりかえり、これから大切にしていきたいことは何ですか。」と問う。その後、全員が発表しその内容を共有することで、今後の道徳的実践意欲を高めたい。

また、ICT機器を効果的に活用し、電子黒板に事前アンケートの結果や発問を示すことで、児童が本時で学習する道徳的価値について興味をもち、今考えることに集中できるような学習環境をつくりながら進めたい。

具体仮説①<児童が道徳的価値を自分のこととして考えるようにするための工夫>

ア 児童のこれまでの道徳的価値の捉え方を想起させる場の設定

- ・「今までにあなたは、どんな思いやりのある行動をしましたか。」という質問で事前アンケートを行い、その結果を導入の場面で児童に提示することで本時で考える道徳的価値についての見通しをもたせる。
- ・ぎゅうぎゅうづめのバスの中で、赤ちゃんが泣いているときの乗客の様々な想いを考える際に、思いやりの心はあるけど、どう行動してよいか困っている様子などから、思いやりの難しさについて人間理解できるようにする。

イ 道徳的価値について多様な考えが表れる議論の場の設定

- ・中心発問で「数十年も前の出来事が今も心に残っているのは、運転手さんやお客さんにどんな行動や思いがあったからだと思いますか。」と問い、行動を学級全体で確認した後、思いを考える。全員で考えることで、行動の背景にある数多くの思いについて知ることができるようにするとともに、多様な考えがあることに気付かせる。また、個人で考える時間をしっかりと確保することで、自分の考えをもって話し合いに参加できるようにする。
- ・事前アンケートと比較し、「今日学習した思いやりの心ってどんな心だろう。」と補助発問を行う。

具体仮説②<より確かに自分自身をふりかえることができるようにするための工夫>

ア 道徳的価値について自分自身の考えをふりかえる場の設定

- ・展開の後段で本時の学習を通して自分自身をふりかえる際、「今日の学習をふりかえり、これから大切にしていきたいことは何ですか。」と問うことで、本時の道徳的価値について考えたことをふりかえり、今後の道徳的実践意欲につなげる。

ウ 議論における児童の思考の流れや変化がわかる効果的な板書の工夫

- ・展開の前段で母親や乗客が困っていたことを挿絵をもとにそれぞれの立場からの思いを考え、その思いがどのように変わっていったのかを矢印で示すことで、互いの思いやりの心に気付けるようにする。

○他の教育活動との関連（別葉より）

道徳	特別活動		教科
	学校行事・児童会等	学級活動	
⑤バスと赤ちゃん（10月） B－（7）親切，思いやり	三世代交流体験活動	下級生への思いやり	外国語：「ランチメニューをつくろう」
☆最後のおくりもの（1月） B－（7）親切，思いやり	人権・同和教育授業公開 一日入学		

4. 本時の指導

(1) ねらい

相手の想いを察した思いやりの心について理解し、思いやりをもち、相手の立場に立って行動して
いこうとする道徳的実践意欲を養う。

(2) 展開

	学習活動 (○主な発問 ・ 予想される児童の反応)	□指導上の留意点 ☆評価 (評価方法)
導入 3分	1 思いやりの行動について考える。 ○「今までにあなたは、どんな思いやりのある行動をしましたか。」 ・ 困っている下学年を助けた。 ・ 友達の落としたものをひろった。 ・ 友達に順番をゆずってあげた。 ・ 自分は相手のために我慢した。	□指導上の留意点 ☆評価 (評価方法) □思いやりのある行動をとった経験について確認し、本時の道徳的価値に関心をもたせる。 □電子黒板を用いて、事前アンケートの提示の仕方を工夫する。
展開 3分 4分 25分	2 「バスと赤ちゃん」を読んで、相手の想いを察し、相手の立場に立つ思いやりについて考える。 ○ぎゅうぎゅうづめのバスの中で、赤ちゃんが泣いたときお母さんやお客さんはどんなことを考えていたのでしょうか。 (お母さん) ・ どうしよう。 ・ 泣き止んで。 ・ 他の人のめいわくだな。 ・ おりよう。 (お客さん) ・ 赤ちゃん大丈夫かな。 ・ 大変そうだな。 ・ しょうがないか。 ・ うるさいな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">◎数十年も前の出来事が今も心に残っているのは、運転手さんやお客さんにどんな行動や思いがあったからだと思いますか。</div> <u>運転手さん</u> 【行動】・・・お母さんに「乗って行ってください。」と言った。 (思い) ・ 自分が言わないといけないかな。(運転手として) ・ お母さんがかわいそうだな。 ・ ここでおりてもらわねえにはいかない。 ・ なんとかしてあげたい。 ・ お母さんを放ってはおけない。 【行動】・・・お客さんに呼びかけた。 (思い) ・ みんなにお母さんの気持ちを分かってほしい。	□教師が範読する。 □それぞれの立場の想いを確認することで、状況についてイメージしやすくする。 □教科書の挿絵をもとに、乗客が困っていることに共感させる。 □乗客の想いについて多様な意見を出させて、思いやりの心をもって行動することの難しさにもふれておく。 □行動については、学級全体で確認してから考えるようにする。 □個人で考える時間を確保し、自分の考えをもった上で話し合いに参加できるようにする。 □行動の背景にある想いについて、全員で意見を伝え合いながら考えることで、多様な考えがあることや友達の想いを知ることができるようにする。 □想いはピンク色の付箋に簡条書きで書かせる。

8分	<p><u>お客さん</u> 【行動】・・・はく手で返事をした。 (想い)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・赤ちゃんだから仕方ない。 ・お母さんも大変だからな。 ・運転手さんの気持ちが分かった。 ・お母さんにも乗って行ってほしい。 <p>3 自分をふりかえる。 ○今日の学習をふりかえり、あなたがこれから大切にしていきたいことは何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の立場に立って考えること。 ・相手の気持ちを考える。 ・相手のためになる行動をする。 	<p>☆相手の想いを察し、相手の立場を考えた思いやりの心のよさが分かったか。 【話し合い・発表・ワークシート】</p> <p><input type="checkbox"/> 母親の行動や想いについては、学級全体で考える。 <input type="checkbox"/> それぞれの行動の違いに気付かせつつ、想いの共通点に目を向けられるよう補助発問を行う。</p> <p><input type="checkbox"/> 全員が発表し、友達の考えも認めることで今後の道徳的实践意欲へとつなげる。</p> <p>☆相手の様子や立場からその人の想いを察する心があることが分かり、その心を基に自分も行動していこうと考えているか。 【発表・ワークシート】</p>
終末 2分	4 教師の話聞く。	<input type="checkbox"/> 教師が思いやりを受けた経験とその時の思いを話すことで、児童の行動のきっかけになるようにする。

(3) 研究協議の視点

児童の多様な考えを引き出すための教師の手立て（話し合いの仕方、板書、発問等）は、児童が道徳的価値を自分のこととして考えるのに有効であったか。

(4) 板書計画

